

拝二小授業カスタンダード 20 Ver. 2.

「3 授業実践『14⑮』」における言語活動V

～言葉の力で自分の思いを伝え合うことができる～

I 体験から感じたことを伝え合う

II 調べた「事実」や「感じ・考えたこと」を伝え合う

III 発見した「法則・きまり・ルール・しくみ」などを伝え合う

IV 必要な情報を正確に取り出し、取り出した複数の情報を比較・関連付け読み取ったことを伝え合う

V 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

IN PUT

① 目的に応じて、連続テキスト(文章)や非連続テキスト(図表、グラフ、写真等)から、必要な情報を正確に取り出す。

② 目的に応じて、取り出した情報を、比較・関連付けて読み取る。

③ 読み取った内容の意図や背景、理由を考えて、理解・解釈・推論して読み解く。

OUT PUT

① 主張(結論)
「私は、・・・だと思います。」
「私は、・・・に賛成 or 反対です。」

② 理由・根拠
「なぜかというとな第1に・・・第2に・・・第3に・・・だからです。」

③ 意思決定
「だから私は、これから・・・します。(～していきます。)

「3 授業実践『16』」における『振り返り(メタ認知)』とは

1 セルフ・モニタリング(自己点検・自己評価)
次の観点から振り返る・自己評価をすること。

- 自分は何のために学んだのか。
- 自分は何を学んだのか。
- 自分はどうのように学んだのか。
- 自分は何ができるようになったのか。
- 自分は学習の意義・価値を実感したか。

2 セルフ・コントロール

(自己管理・自己制御)

「セルフ・モニタリング」の結果、
これからの解決策や対策について具体的に考え実行すること。



1 授業を実施する前に・授業を実施した後に

- ① 新「年間指導計画」のPDCAサイクル化を図っている。
- ② 授業の終了後、顕著な児童の発言、気になる児童の行動・つぶやき等を「週ごとの指導計画」に明記している。
- ③ 授業規律や授業のルールが徹底されている。
- ④ 発言するときのルールが徹底されている。(挙手、返事、起立、周りの児童)

2 授業準備

- ⑤ 授業開始の前に、机の上に教科書・ノート等をそろえさせている。
(授業に不必要なものが、机の上にはない。)
- ⑥ 授業開始の時間を守っている。

3 授業実践

◇ 導入 (問題把握)

- ⑦ 授業始めの挨拶をしている。
- ⑧ 既習事項や生活経験に基づいて、誰もが答えられるような発問から授業をスタートさせている。
- ⑨ 「単元名」「学習のめあて」を明示している。(めあて：具体的行動目標＝ゴールの姿)
- ⑩ 「学習問題(課題)」及び「仮説(予想+理由)」を立てさせたり、見通しをもたせたりしている。

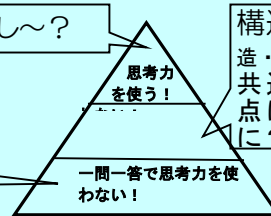
概念的発問：なぜ？ どうして？ 何のために？ もし～？

構造的発問：(構造・分布・比較) 共通点は？ 相違点は？ どのように？

◇ 展開 (追究<自力解決・協働解決〔学び合い〕>)

- ⑪ 問いの構造を踏まえ、意図的に発問をしている。
- ⑫ 児童の表情をよく観察し、つぶやきを取り上げるとともに、机間指導等で学習状況を把握している。
- ⑬ 構造的に板書をしている。(学習のプロセスやポイントを振り返ることができる。児童の思考が板書されている。)
- ⑭ 児童自らの考えを表現できる場を設定している。(ペア、グループ、全体)
- ⑮ 児童の相互評価(学び合い)の場を設定している。(比較、関連付け、総合)

記述的発問：いつ・どこで・誰(何)が・どうした？ 式は・答えは？



裏面参照

◇ まとめ (振り返り・内面化)

- ⑯ 「学習のめあて」が達成できたかどうか、振り返り(自己評価)の場を設定している。
- ⑰ 児童が次時の学習に対して、関心・意欲や見通しをもてるようにしている。

4 授業終了時・後

- ⑱ 授業の挨拶をしている。
- ⑲ 授業終了の時間を守っている。
- ⑳ 習得した知識・技能を、補充する課題・活用する課題(宿題)を出している。

※達成目標(例)：7月までは60%(12項目)、12月までは70%(14項目)、2月までは80%(16項目)